

# HILTI

## DX 351-CT

Bedienungsanleitung de

Operating instructions en

Mode d'emploi fr

Manual de instrucciones es

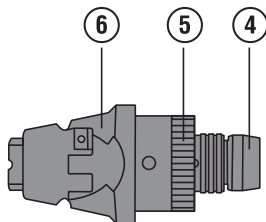
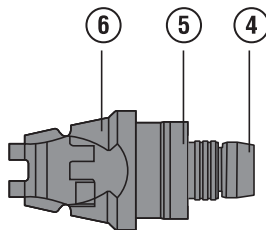
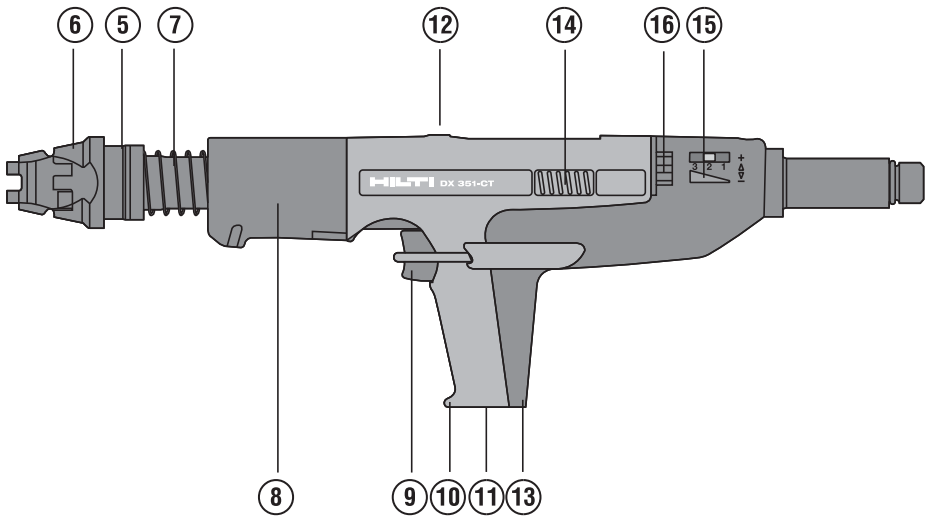
Manual de instruções pt

Kullanma Talimatı tr

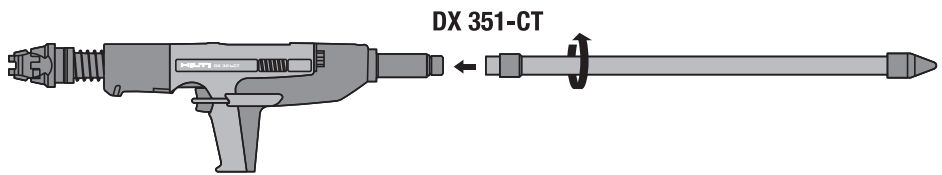
取扱説明書 ja



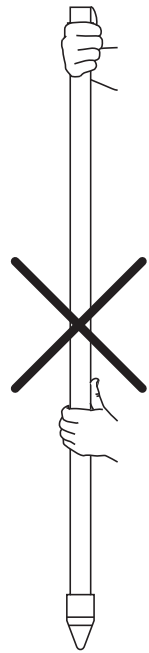
CE

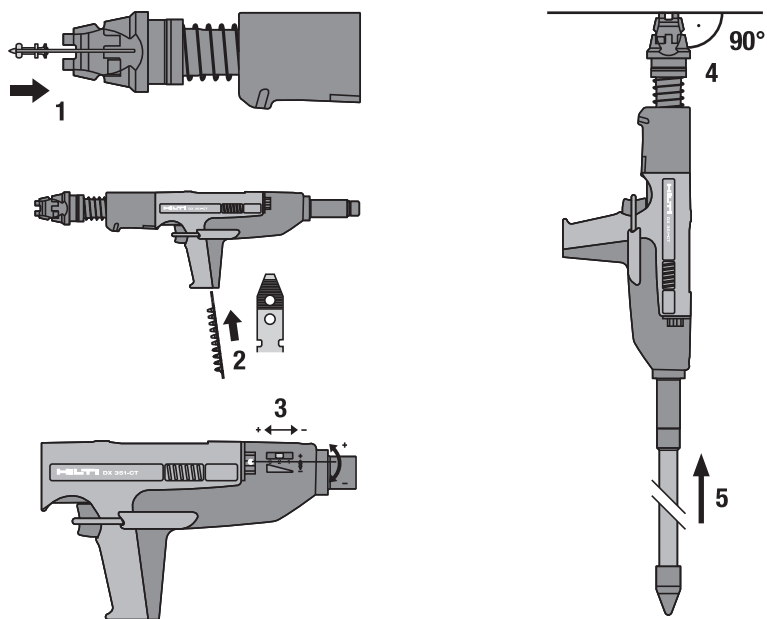
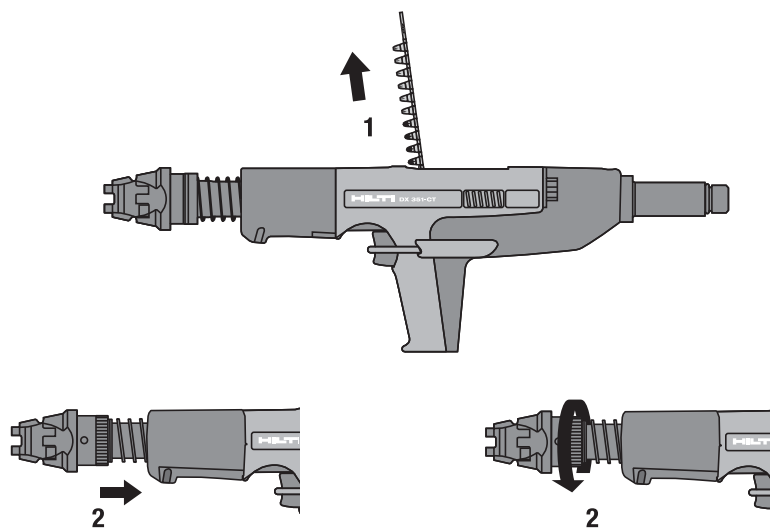


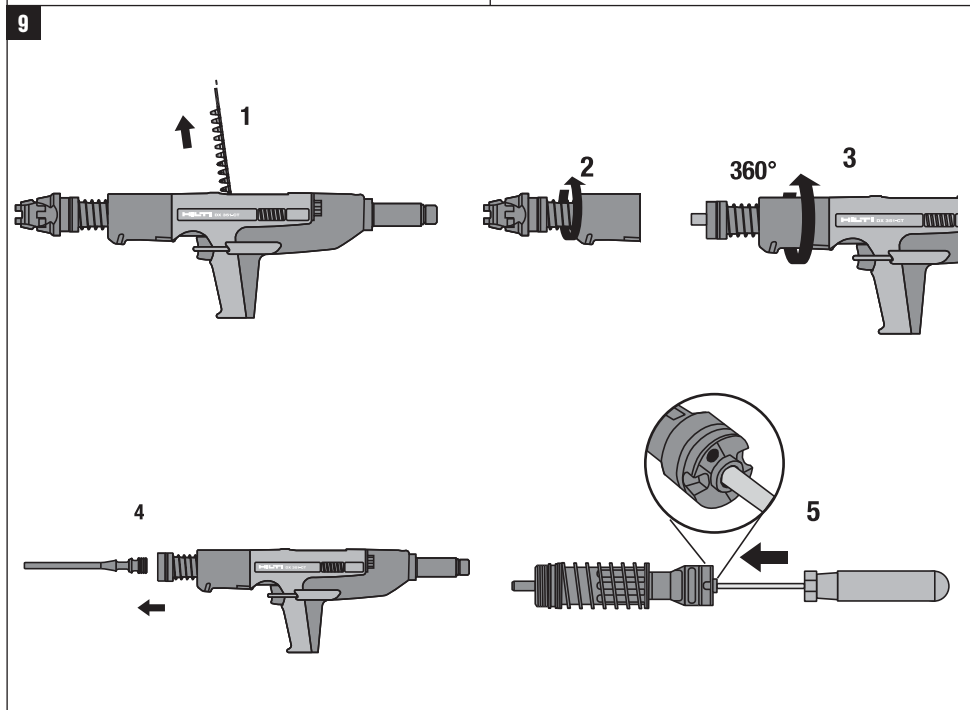
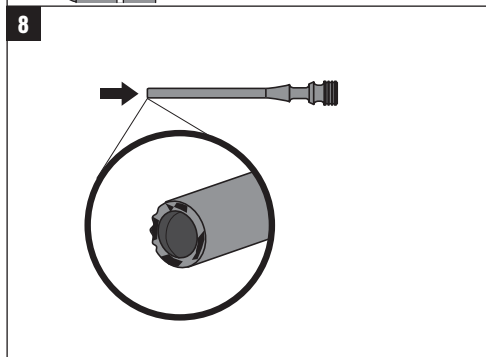
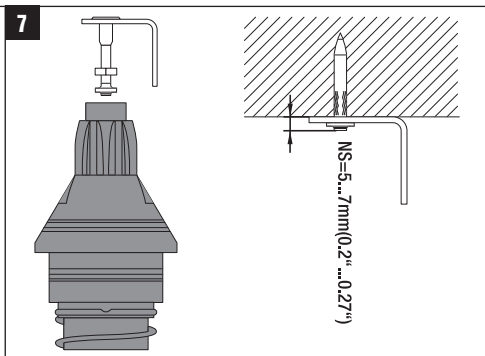
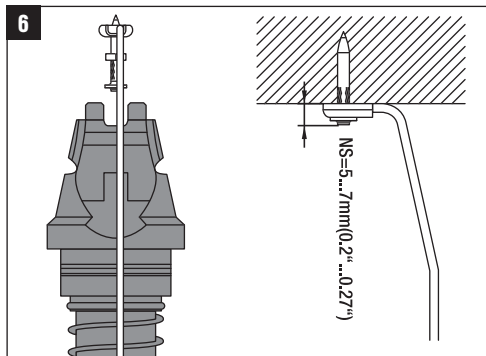
2



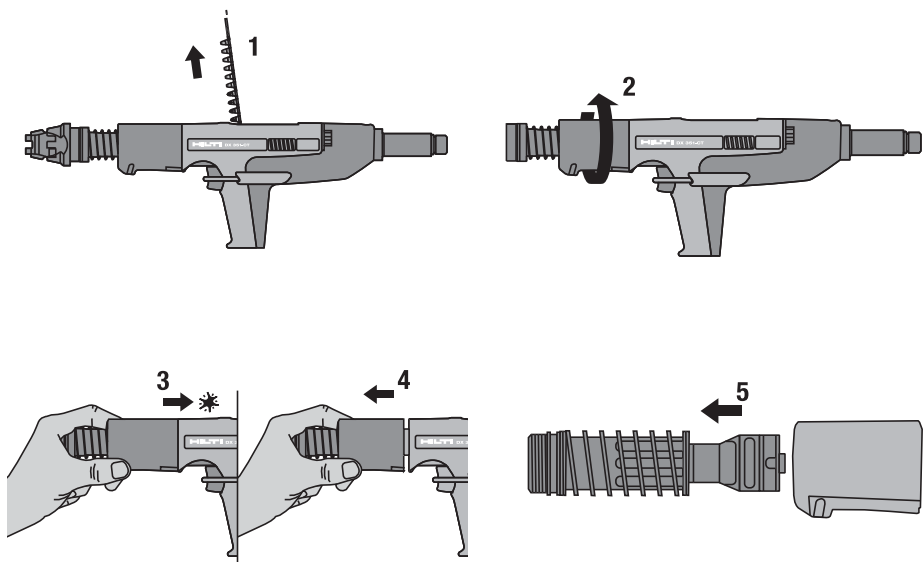
3



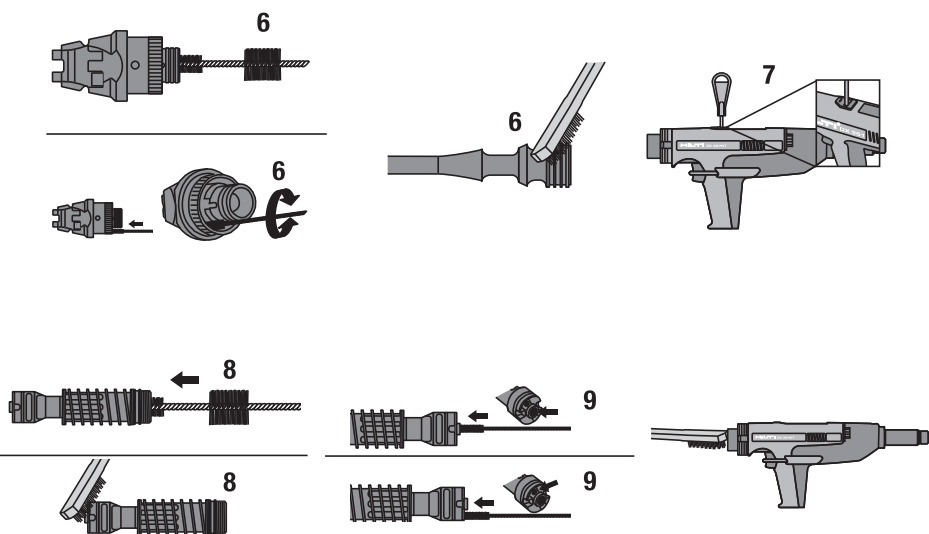
**4****5**



10



11



## DX 351-CT 安全鋏打機

ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

この取扱説明書は必ず本体と一緒に保管してください。

他の人が使用する場合には、本体と取扱説明書と一緒にお渡しください。

目次	頁
1 安全上の注意	84
2 一般的な注意	86
3 製品の説明	87
4 消耗品	87
5 製品仕様	88
6 ご使用前に	88
7 ご使用方法	89
8 手入れと保守	90
9 故障かな? と思った時	91
10 廃棄	95
11 本体に関するメーカー保証	95
12 EU 規格の準拠証明 (原本)	96
13 CIP 検査合格	96
14 使用者の健康と安全について	96

❶ この数字は該当図を示しています。図は二つ折りの表紙の中にあります。取扱説明書をお読みの際は、これらのページを開いてください。  
この取扱説明書で「本体」と呼ばれる工具は、常にDX 351-CT グリップ付き安全鋏打機を指しています。

各部名称、操作部 / 表示部名称 ❶

- ❶ ピストンブレーキ (ファスナーガイドの部品)
- ❷ 細型スリーブ
- ❸ ファスナーガイド
- ❹ ピストンリターンスプリング
- ❺ ブラックハウジング
- ❻ トリガー
- ❼ グリップ
- ❽ 空包装填口
- ❾ 空包抜き取り口
- ❿ グリップカバー
- ⓫ 通気溝
- ⓬ 威力調整目盛り
- ⓭ 威力調整つまみ

## 1 安全上の注意

### 1.1 基本的な安全注意事項

この取扱説明書の各項に記載された安全注意事項の外に、常に下記事項を守らなければなりません。

#### 1.1.1 空包の使用

必ずヒルティ製の空包またはそれと同等の品質の空包を使用してください

ヒルティ製工具で品質の劣る空包を使用すると、未燃焼粉末が堆積し、それが突然に爆発して使用者およびその周囲にいる人に重傷を負わせる危険があります。空包は、以下のいずれかの最低条件を満たしていなければなりません：

- a) 空包メーカーは、EU 規格 EN 16264 に準拠した試験に合格したことを証明できなければなりません あるいは
- b) CE 適合マークの表示がなければなりません (2013 年 7 月以降、EU 内では表示が義務化)

#### 注意事項

安全鋏打機用のすべてのヒルティ製空包は、EN 16264 に準拠した試験に合格しています。EN 16264 規格で定められた試験は、認定機関により実施される空包と工具の規定の組合せによるシステム試験です。工具名称、認定機関の名称およびシステム試験番号は、空包の梱包に表示されています。

梱包例については下記も参照してください：  
[www.hilti.com/dx-cartridges](http://www.hilti.com/dx-cartridges)

#### 1.1.2 使用者に留意して頂くこと

本体の安全な使用についてのトレーニングを受けるまでは、決して本体を使用しないでください。この件については、ヒルティセールスアドバイザーにお尋ねください。

#### 1.1.3 作業者に関する安全

- a) DX ファスニング装置を使用の際には、油断せず十分に注意し、常識をもった作業をおこなってください。疲れている場合、薬物、医薬品服用およびアルコール飲用による影響下にある場合には本体を使用しないでください。本体使用中の一瞬の不注意が重傷の原因となることがあります。
- b) 不安定な姿勢はとらないでください。足元を確かにし、常にバランスを保ちながら作業してください。
- c) 本体の先端部を、決して自分や周囲の人に向けてください。
- d) 鋏打機の先端部を絶対に手や身体他の部分 (あるいは他の人) に押し付けしないでください。
- e) 作業中は、作業関係者以外、特に子供が近づかないようにしてください。

- f) 本体を使用する際、腕は軽く曲げた状態にしてください（決して腕をピンと伸ばして突っ張らないようにしてください）。痛みあるいはその他の不快感を感じた場合は、直ちに使用を中止してください。

#### 1.1.4 DX ファスニング装置の慎重な取扱いおよび使用

- a) 用途に合った工具をご使用ください。本体を本来の目的以外には使用しないでください。必ず、指示にしたがい、不具合のない状態で使用してください。
- b) 本体は必ず両手でグリップを掴んで確実に保持してください。本体は、エクステンションの保護されていないメタルバーに固定しないでください。これは、本体の機能障害の原因となることがあります。
- c) 本体は作業面に対して垂直に押し付けてください。
- d) 空包やネイルを装填してある本体は、決して放置しないようにしてください。
- e) 清掃や修理、点検をする時、休憩に入る時、あるいは保管する時には、必ず事前に空包およびネイルを取り出してください。
- f) 本体とアクセサリに不具合がないか点検してください。本体を続けて使用する前に、安全装置およびわずかな損耗のあるパーツについて、作業に影響を及ぼすことなく規定どおりの機能を発揮できることを確認する必要があります。可動部分がスムーズに回転し、動きに硬さがないか、あるいはパーツに不具合がないか点検してください。使用するパーツがしっかりと固定されて、本体が支障なく作動するための条件が整っているか確認してください。安全装置やパーツに不具合があり、取扱説明書に解決方法が明記されていない場合は、弊社営業担当またはヒルティ代理店・販売店に適切な修理/交換を依頼してください。
- g) 打鋸する際には、母材に対して本体を常に直角に保つようにしてください。それによりネイルが母材からそれて打鋸されるのを防止できます。
- h) ファスナーは決して再使用してはなりません。
- i) 打ち込まれたファスナーに再度打鋸し直すと、ファスナーが折れたり、壊れることがありますので止めてください。
- j) 一度使用した穴に打鋸しないでください。ただし、ヒルティにより指定されている場合を除きます。
- k) 常に、母材の最小厚、ファスニング距離および必要な端部までの距離などのファスニングガイドラインを遵守してください。
- l) 可能な限り、破片ガードを使用してください。
- m) ファスナーガイドを手で引き戻さないでください。場合によっては本体が打鋸可能状態になることがあります。打鋸可能状態になると、身体部分に鋸が打ち込まれる恐れがあります。
- n) 本体が熱いうちは、決して分解しないでください。
- o) 各国の関連法律、特に事故防止規定に注意してください。

#### 1.1.5 作業場の安全確保



- a) 作業場の採光に十分配慮してください。

- b) 本体を使用する場合は必ず作業場の通気を良くしてください。
- c) 打鋸にふさわしくない母材には、決して打鋸しないでください。溶接した鋼材や鋳物などの固すぎる母材。木材や石膏などの柔らかすぎる母材。ガラスやタイルなどの割れやすい母材。その他の打鋸にふさわしくない母材としては、次のようなものがあります：ガラス、大理石、プラスチック、青銅、真鍮、銅、自然石、断熱材、中空ブロック、化粧タイル、薄い金属板 (< 4 mm) および気泡コンクリート。これらの母材に打鋸すると、ファスナーが折れたり、欠けたり、貫通する恐れがあります。
- d) 本体は、12 mm (1/2 インチ) 以上の防火層のある母材では使用しないでください。防火層のある母材で本体を使用すると、本体の機能障害の原因となることがあります。
- e) ファスナーを打鋸する前に、作業場の後方に人がいないことを確認してください。
- f) 作業場の整理整頓に心がけてください。事故の原因となり得る危険物は作業区域から取り除いておいてください。作業場が整理整頓されていないと、事故を引き起こすことがあります。
- g) ハンドルとグリップは、乾燥した清潔な状態に保ち、オイルやグリスの付着がないようにしてください。
- h) 滑り止めのついた履き物を着用してください。
- i) 周囲状況を考慮してください。本体に雨や雪が当たらないようにしてください。火災や爆発の恐れがあるような状況では、本体を使用しないでください。

#### 1.1.6 機械的な危険性に対する安全対策



- a) 正しいファスナーガイド / ファスナーの組み合わせを選択してください。組み合わせを間違えますと、ファスニング品質に影響が及ぶだけでなく、怪我を負ったり、本体が重大な損傷を受けることがあります。
- b) 本体用として認可されたヒルティ純正のファスナーのみを使用してください。
- c) 摩耗あるいは損傷したピストンあるいはピストンブレーキは使用しないでください。ピストンを改造しないでください。

#### 1.1.7 熱の危険性に対する安全対策



- a) 本体が過度に熱くなった場合には、冷ましてください。
- b) 本体がまだ冷めていないうちに作業を行う必要がある場合は、必ず保護手袋を着用してください。
- c) プラスチックの空包ストリップが溶け始めた場合は、本体を冷ましてください。

ja



### 1.1.8 電気的な危険に対する安全対策

本体は黒いグリップ部分で保持し、電気の導通（感電）を回避してください。本体およびエクステンションに不具合がないか定期的に点検してください。

### 1.1.9 爆発の危険性



- a) 本体用として許可されたヒルティ純正の空包のみを使用してください。
- b) 空包ストリップは本体から慎重に取り外してください。
- c) 空包を本体から無理に取り外そうとしないでください。

- d) 使用しない空包は乾いた高い場所に施錠し、子供の手の届かない場所に保管してください。

### 1.1.10 個人保護用具



本体の使用中小および修理中、作業中および現場で直前に居合わせる人々は保護メガネ、保護ヘルメット、安全靴および耳栓を着用しなければなりません。作業者はさらに保護手袋を着用しなければなりません。

ja

## 2 一般的な注意

### 2.1 安全に関する表示とその意味

#### 危険

この表記は、重傷あるいは死亡事故につながる危険性がある場合に注意を促すために使われます。

#### 警告事項

この表記は、重傷あるいは死亡事故につながる可能性がある場合に注意を促すために使われます。

#### 注意

この表記は、軽傷あるいは所持物の損傷が発生する可能性がある場合に使われます。

#### 注意事項

この表記は、本製品を効率良く取り扱うための注意事項や役に立つ情報を示す場合に使われます。

### 2.2 記号の説明と注意事項

#### 警告表示



一般警告事項



爆発物に関する警告事項



高温に関する警告事項

#### 義務表示



保護メガネを着用してください



保護ヘルメットを着用してください



耳栓を着用してください



保護手袋を着用してください



ご使用前に取扱説明書をお読みください

#### 機種名・製造番号の表示箇所

機種名および製造番号は本体に貼られた銘板に表示されています。当データを御自身の取扱説明書にメモ書きしておき、お問い合わせなどの必要な場合に引用してください。

機種名 : \_\_\_\_\_

製品世代 : 01 \_\_\_\_\_

製造番号 : \_\_\_\_\_

## 3 製品の説明

### 3.1 正しい使用

ヒルティ DX 351-CT は、ファスナーをコンクリート、鋼材、その他の DX ファスニングに適した母材（ファスニングテクノロジーマニュアルを参照）にネイルを打鉄する安全鉄打機です。

当本体はピストン原理に基づいており、作業員およびファスニングの安全を確保しています。ピストン動作および空包の薬室への送りは、生成されるガス圧により自動で行われます。このため、長さ 37 mm までのネイルを極めて迅速かつ経済的に打鉄することができます。すべての火薬式安全鉄打機と同様、本体、ファスナーガイド、グリップ、ファスナープログラムおよび空包プログラムで「技術的に一体化されたユニット」を構成しています。即ち、本体用として特別に製造されたファスナーおよび空包、あるいは同等の品質を持つ製品を使用した場合に限り、トラブルの心配のないファスニングが保証されます。この条件を守ることを前提として、当社はファスニングに最適な鉄打機として当本体をお勧めいたします。

本体はプロ仕様で製作されており、本体の使用、保守、修理を行うのは、認定、訓練された人のみに限ります。これらの人は、遭遇し得る危険に関する情報を入手していなければなりません。本体および付属品の、使用法を知らない者による誤使用、あるいは規定外使用は危険です。

怪我を防止するため、必ずヒルティ純正のファスナー、空包、付属品、消耗品あるいは同等の品質を持つ製品を使用してください。

本体の加工や改造はしないでください。

### 3.2 貫通および跳弾保護

DX 351-CT はピストン原理により動作するので、銃器として分類されていません。ほとんどすべての余剰エネルギーは、本体内で失われます。

### 3.3 落下暴発防止装置

点火装置と接触圧ストロークの組合せにより、本体を落としても暴発することがないように、落下暴発防止装置を装備しています。このため、本体が固い地面に落下して跳ね返っても点火することはありませんし、どのような角度で当たっても点火の心配はありません。

### 3.4 トリガー安全装置

トリガーを引いただけでは打鉄動作が開始されないように、トリガー安全装置を装備しています。打鉄動作を開始できるのは、本体を完全に立てた状態で母材に押し付けてグリップを押しした場合だけです。

### 3.5 接触圧安全装置

接触圧安全装置は、本体がしっかりと完全に母材に押し付けられている場合にのみ打鉄動作が可能になることを確実にものにします。接触圧安全装置が装備されているので、打鉄動作を開始するには、本体を 140 N 以上の力で確実に押し付ける必要があります。

### 3.6 方向安全機構による突発的暴発防止装置

方向安全機構による突発的暴発防止装置は、本体が水平位置あるいは垂直位置において床面方向へ作動することを防止します。本体を上に向けていると突発的に暴発することがあります。

## 4 消耗品

### 注意事項

必ずしも、以下の表に記載されている全製品が全ての国で入手可能なわけではありません。入手可能な製品についてはヒルティサービスにお尋ねいただくか、あるいはカタログでご確認ください。

安全鉄打機 DX 351-CT	品名	ファスナー
グリップ	X-PT CT-351	
基本ユニット	DX 351-CT	
標準ピストン	X-P8-351 CT	X-CW
ピストン DX 351	X-P8S-351	X-CC、X-HS、X-U、X-C
標準ファスナーガイド	X-351-F8CT	X-CW
DX 351 ファスナーガイド	X-FG8S351	X-CC、X-HS、X-U、X-C
ME ファスナーガイド	X-FG8ME-351	X-CC、X-HS、X-U、X-C
保護キャップ	X-351-CT	

標準アクセサリ	品名
本体ケース	DX 351-CT
清掃キット	DX 351

標準アクセサリ	品名
ヒルティスプレー	66 ML
追加アクセサリ	品名
エクステンション、3 フィート	X-PT CT-351 3FT
エクステンション、1 フィート	X-PT CT-351 1FT
ショルダーポーチ	X-PT CT
空包タイプ	品名
強	6.8/11 M 赤
中	6.8/11 M 黄
弱	6.8/11 M 緑

ja

## 5 製品仕様

技術データは予告なく変更されることがあります。

製品の説明	重量	本体寸法 (長 x 幅 x 高)
DX 351-CT 本体 (基本ユニット、ピストン、ファスナーガイド)	2.7 kg (5.95 ポンド)	545 mm X 55 mm X 164 mm (21.4 インチ X 6.4 インチ X 2.1 インチ)
グリップ X-PT CT-351	0.9 kg (2 ポンド)	935 mm x $\phi$ 35.5 mm (36.8 インチ x 1.4 インチ)
エクステンション、3 フィート	0.5 kg (1.2 ポンド)	915 mm x $\phi$ 30 mm (36 インチ x 1.2 インチ)
エクステンション、1 フィート	0.2 kg (0.5 ポンド)	288 mm x $\phi$ 30 mm (12 インチ x 1.2 インチ)

### DX 351-CT 本体

接触圧ストローク	62 mm (2.4 インチ)
作動力	140... 320 N
作業温度 / 周囲温度	-15... +45°C (5° F ... 113° F)

## 6 ご使用前に



### 注意事項

ご使用前に取扱説明書をお読みください。

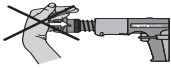
### 6.1 本体の点検

本体に空包ストリップが装填されていないことを確認してください。本体に空包ストリップが装填されている場合は、これを引き出して取り外してください。

本体のすべての表面パーツに損傷がないか、またすべての装置が支障なく作動するか確認してください。パーツが損傷していたり、装置が正しく作動しない場合は、本体を使用しないでください。修理が必要な際は、弊社営業担当またはヒルティ代理店・販売店にご連絡ください。

ピストンとピストンブレイキが正しく取り付けられているか、また摩耗がないかを点検します。

## 7 ご使用方法



### 注意

ファスナーガイドは手のひらやその他の身体部分あるいはネイルを使用して押し戻さないでください。怪我をする危険があります。

### 警告事項

打銃動作中に母材が破砕される可能性があります。作業者および現場で直近に居合わせる人々は保護メガネおよび保護ヘルメットを着用してください。破片が身体の一部、眼などを傷つけることもあります。

### 注意

ファスナーの打銃は発射薬の点火によって行われません。作業者および現場で直近に居合わせる人々は耳栓を着用してください。過剰な騒音で聴力の低下を招く場合もあります。

### 警告事項

本体を身体部分（手の平など）に押し付けると、規定に反して本体が打銃可能状態になることがあります。打銃可能状態になると、身体部分に銃が打ち込まれる恐れがあります（ネイルまたはピストンによる怪我の恐れ）。決して本体を身体部分に押し付けしないでください。

### 7.1 グリップの本体への取付け 2

#### 注意

国別の法規あるいは特定の規定のない限り、高い天井に届くようにグリップと本体の間に最大 3 個のエクステンション（3 フィートおよび / または 1 フィートエクステンション）を取り付けることができます。全てのエクステンションの許容全長（グリップを接続していない状態）は、9 フィート（3 m）です。

#### 注意

グリップとエクステンションが正しく取り付けられていることを確認してください。

グリップを後方から本体に取り付けます。

### 7.2 取扱い 3 4

#### 注意

本体は黒いグリップ部分で保持し、電気の導通（感電）を回避してください。本体およびエクステンションに不具合がないか定期的に点検してください。

1. ファスナーを挿入します。
2. ハンドルの下側でストリップが完全に見えなくなるまで、空包ストリップを幅の細い方を先にしてハンドルの下方から差し込みます。  
注意事項部分的に使用済みの空包ストリップを装填する場合は、未使用の空包が薬室内に来るまで、空包ストリップを手で引き出します。
3. 調整つまみを押して回す動作により、本体威力を調整します（1 = 最小威力、2 = 中威力、3 = 最大威力）。作業は最小威力で開始してください。ネイルが十分に打銃されないようなら、威力を高めてください。
4. 本体を天井に対して直角の位置にして押し付けます。
5. グリップを天井方向へ押し打銃を行います。

### 7.3 アタッチメントの交換 5

1. 空包ストリップを抜き取り口から引き出します。
2. ファスナーガイドをピストンガイドの上に強く押し付けて、続いてピストンガイドがロックされるまでねじを時計方向に回します。

### 7.4 ファスニングガイドライン

#### 注意事項

詳しい仕様情報は、各国のヒルティ社から入手可能な技術ガイドライン、あるいは必要に応じて、各国の技術法規をご参照いただくようお願いいたします。

### 7.4.1 空包が発火した場合の手順

不発、即ち空包が発火しなかった場合は、常に次の手順で作業を進めてください。

本体を 30 秒間作業面に押し付けたままにします。それでも発火しない場合は、本体を作業面から離します。その時、決して自分や周りの人に本体を向けないでください。

空包ストリップを手で空包 1 個分引き出します。空包ストリップの残りの空包を全部使い切ってください。使用済の空包ストリップを本体から取り外し、間違っても再使用されることのないように廃棄してください。

### 7.4.2 X-CW に関する取り扱い注意事項 6

推奨ファスナーガイド：X-351-F8CT  
X-CW ファスナーを他の DX351 ファスナーガイドとともに使用すると、ファスニング品質が低下することがあります（脱落率の上昇）。

ファスナー X-CW をファスナーガイドに挿入します。ファスナーが正しく装着されたか確認します。目視確認において正しく装着されていないものは全て交換します。

母材：コンクリート

ファスナー：X-CW C27、X-CW C32、X-CW U27、X-CW U27

ファスニング品質：ネイルヘッドが母材にスリーブを押し付けること。

ネイルの突出：5...7 mm (0.2 インチ ...0.27 インチ)

#### 7.4.3 X-CC に関する取り扱い注意事項 17

推奨ファスナーガイド：X-FG8S351、X-FG8ME-351  
ファスナー X-CC をファスナーガイドに挿入します。  
ファスナーが正しく装着されたか確認します。目視確認において正し装着されていないものは全て交換します。

母材：コンクリート

ファスナー：X-CC C27、X-CC27 C32、X-CC27 U22、X-CC27 U27

ファスニング品質：ネイルヘッドが母材にクリップを押し付けること。

ネイルの突出：5...7 mm (0.2 インチ ...0.27 インチ)

#### 7.5 ピストンおよびピストンブレーキの交換 8 9

##### 警告事項

本体に空包が装填されていないことを確認してください。ファスナーガイド内にファスナーがあってはなりません。

##### 注意

使用後は、取り扱う部分が非常に熱くなっている可能性があります。本体が冷めていないうちに以下の作業を行う必要がある場合は、必ず保護手袋を着用してください。

##### 注意事項

正常でない打釘が繰り返されると、ピストンおよびピストンブレーキが摩耗します。ピストンに破断が認められる場合やピストンブレーキの合成ゴムが激しく摩耗している場合は、部品が寿命に達しています。

1. 空包ストリップを抜き取り口から引き出します。
2. ファスナーガイドのねじを外します。
3. ブラックハウジングを反時計方向に完全に 1 回転 (360°) させます。  
これでピストンストッパーが外れます。
4. ピストンガイドからピストンを取り外し、ファスナーガイドからピストンブレーキを取り外します。  
**注意事項**ピストンがピストンガイドに引っかかる場合は、ピストンガイド全体を取り外す必要があります (「清掃」の項を参照してください)。
5. これには、葉室でピストンを突きます。  
**注意事項**ピストンは研磨しないでください。ピストンが短くなると本体を損傷します。

#### 7.6 清掃 10 11

##### 警告事項

DX 本体の汚れには、健康を損なう恐れのある物質が含まれています。清掃中に埃 / 汚れを吸い込まないでください。食品に埃 / 汚れが付着しないようにしてください。本体の清掃後には手を洗ってください。本体部品の手入れや保守 / 潤滑にグリスを使用しないでください。グリスを使用すると、本体が正常に作動しなくなることがあります。ヒルティスプレーまたは同品質の製品のみを使用してください。

1. 空包ストリップを抜き取り口から引き出します。
2. ブラックハウジングのねじを反時計方向に回して完全に外します。
3. ピストンストッパーを解除するためにピストンガイドを手のひらで押し戻します。
4. ブラックハウジングをピストンガイドから取り外します。
5. ユニット全体を取り外します。
6. ピストンとファスナーガイドを清掃してください。
7. 空包送りシステムを清掃してください。
8. ピストンガイドの内側および外側 (ピストンガイドの背面および前側部分) を清掃し、外側をヒルティスプレーで潤滑してください。
9. 葉室内部とピストンガイド端部の威力調整穴を清掃します。
10. ハウジングの内側を清掃し、ヒルティスプレーを軽く噴き付けます。

## 8 手入れと保守



##### 注意

このタイプの工具を通常の作動条件下で使用した場合、汚れが生じたり機能的に重要なパーツが磨耗することがあります。信頼性のある安全な作動のために、定期的な点検と手入れが欠かせません。ヒルティは、本体的な点検と手入れが少なくとも週に 1 回、遅くとも 3,000 発の打釘後に実施することを推奨します。

##### 警告事項

手入れと保守を行う前に、本体から空包とネイルを取り出してください。

##### 注意

使用中に本体が熱くなることがあります。手に火傷を負う場合があります。手入れと保守作業を行う際は、保護手袋を着用してください。本体を冷ましてください。

#### 8.1 本体の手入れ

定期的に、少し湿した布で本体表面を拭いてください。

## 注意事項

スプレーやスチームによる清掃は避けてください。通気溝が覆われた状態で本体を使用しないでください。本体内部に異物が入らないようにしてください。

傷していたり、装置が正しく作動しない場合は、本体を使用しないでください。修理が必要な際は、弊社営業担当またはヒルティ代理店・販売店にご連絡ください。

## 8.2 保守

本体の全ての表面パーツに損傷がないか、また全ての装置が支障なく作動するか確認してください。パーツが損

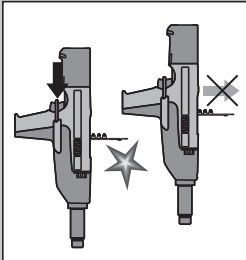
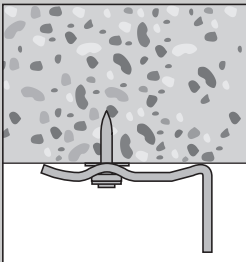
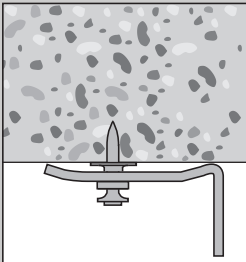
## 8.3 手入れと保守を行った後の点検

手入れ、保守の作業を済ませた後、および空包を装填する前には、すべての安全装置が装着され、正常に作動することを確認してください。

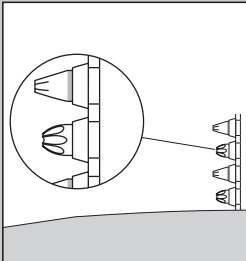
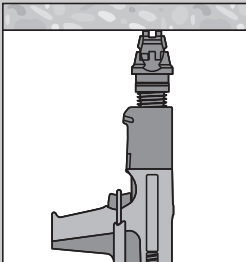
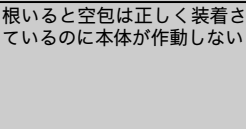
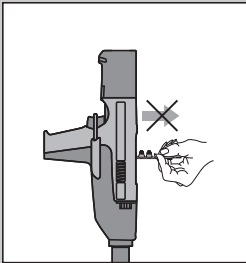

# 9 故障かな？ と思った時

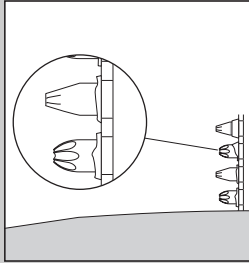
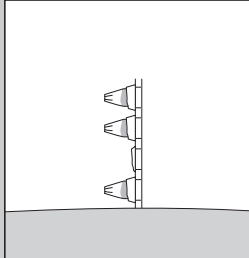
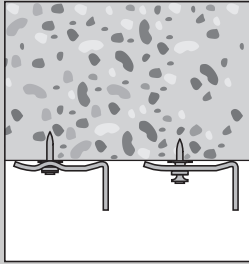
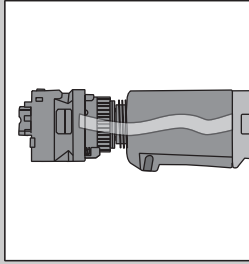
## 警告事項

手入れと保守を行う前に、本体から空包ストリップとファスナーを取り出してください。

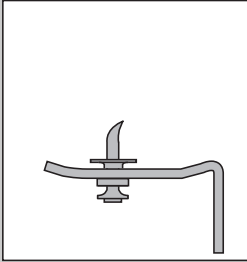
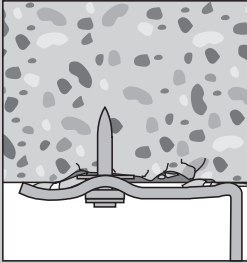
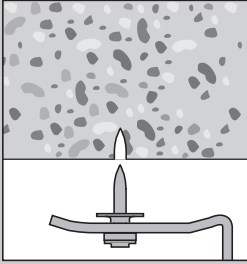
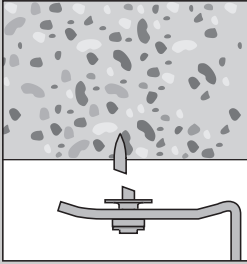
症状	考えられる原因	処置
空包が送られない。 	空包ストリップの損傷。  グリップの取扱いが正しくない。  燃えカスがこびり付いている。  本体の損傷。	空包ストリップを交換する。  クリップを正しく取り扱う。 以下の章を参照してください：7.2 取扱い <b>3 4</b>  空包マガジンガイドを清掃する。  ヒルティサービスセンターに連絡する。
ファスナーの打銃が深すぎる 	過剰エネルギー  ネイルが短すぎる。	空包の推奨適用に基づき、威力設定を下げる、またはより低いエネルギーの空包を使用する。  長めのネイルを使用する。
ファスナーの打銃深さが十分でない 	威力が小さすぎる。  長すぎるネイルが選択されている。  本体の汚れ。  ピストンが折れている。  本体の損傷。	空包の推奨適用に基づき、威力設定を上げる、またはより強い空包を使用する。  許可されるなら短いファスナーを使用する。  本体を清掃する。  ピストンを交換する。  ヒルティサービスセンターに連絡する。

ja

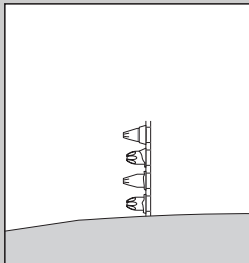
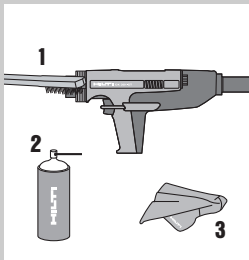
症状	考えられる原因	処置
本体が押し付けられた状態のまま（圧を解除しても広がらない）	本体の汚れ。	本体を清掃する。
空包が発火しない。 	本体を母材に完全に押し付けていない。	本体を母材に完全に押し付ける。
	空包ストリップが空。	空包ストリップを取り出し、新品を装填する。
	単独の空包の不良。	空包ストリップをさらに送って残りの空包を処理する。
	本体の故障、または複数の空包の不良。	ヒルティサービスセンターに連絡する。
極めて大きな威力を必要とする ピストンガイドが引っかった 	本体の汚れが激しい。	本体を清掃する。
	本体の汚れが激しい。	本体を清掃する。
	ピストンが損傷している。	ブラックハウジングを取り外す。 ピストンを点検し、必要に応じて交換する。
	天井での防火層の突出。	防火層を取り外す。
	根いると空包は正しく装着されているのに本体が作動しない	本体の汚れが激しい。 グリップの取扱いが正しくない。
空包ストリップを取り出せない 	防火層のある母材。	天井での防火層の突出。
	本体の損傷、または規定の打鉄数を超えたために過熱した。	本体を冷ます。 続いて空包ストリップを慎重に本体から取り外す。 <b>警告事項</b> 空包をマガジンストリップあるいは本体から無理矢理外さないでください。 ヒルティサービスセンターに連絡する。
	本体の損傷。	ヒルティサービスセンターに連絡する。

症状	考えられる原因	処置
<p>空包ストリップが溶けた</p> 	<p>打銃時に本体を長く押し付け続けた。</p> <hr/> <p>規定の打銃数を越えた。</p>	<p>打銃する前に、本体をあまり長く押し続けけない。</p> <hr/> <p>最大打銃数を守る。 空包を取り外す。 迅速に冷却して損傷を回避するために本体を取り外す。</p>
<p>空包が空包ストリップから外れる</p> 	<p>規定の打銃数を越えた。</p>	<p>直ぐに作業を中止する。 空包ストリップを取り外す。 本体を冷ます。 本体を清掃し、外れかけた空包を取り除く。 <b>警告事項</b> 空包をマガジンストリップあるいは本体から無理矢理外さないでください。</p>
<p>打銃深さが異なる</p> 	<p>本体の汚れ。</p>	<p>本体を清掃する。</p>
<p>ピストンがピストンガイド内で引っ掛かった</p> 	<p>ピストンが損傷している。</p> <hr/> <p>打銃の際、過剰エネルギーが鋼板にかかった。</p> <hr/> <p>ファスナーなしで、高いエネルギーで打銃した。</p>	<p>ブラックハウジングを取り外す。 ピストンを点検し、必要に応じて交換する。</p> <hr/> <p>エネルギーを小さくする。</p> <hr/> <p>空打ちをしない。</p>



症状	考えられる原因	処置
ネイルが曲がった 	コンクリート内に硬いおよび / または大きな添加物がある。	許可されるなら短いファスナーを使用する。
	コンクリート面のすぐ下に鉄筋がある。	適用基準の高いネイルを使用する。
	表面が硬い。	他のシステムを使用する。
コンクリートの剥離 	高耐力コンクリート。コンクリート内に硬いおよび / または大きな添加物がある。古いコンクリート。	エネルギーを調整する。他のシステムを使用する。例えば、DX-Kwik。
ファスナーがコンクリートに十分な深さで打鉄されない 	威力が小さすぎる。	威力を強くするか、あるいは空包強度の強い空包を使用する。
	適用基準を超えている（非常に硬い母材）。	強いファスナーを使用する。
ネイルが折れる 	威力が小さすぎる。	威力を強くするか、あるいは空包強度の強い空包を使用する。
	適用基準を超えている（非常に硬い母材）。	強いネイルを使用する。

ja

症状	考えられる原因	処置
空包の喪失 	本体が完全に押し付けられていない。	本体を作業面に完全に押し付け、トリガーを引く。
ロッキングスリーブを外したり締め付けたりするには強い力が必要です。	ネジの汚れ	ネジを清掃してください。ヒルティスプレーを軽く吹き付けて、布で拭きます。
		

ja

## 10 廃棄



本体の大部分の部品はリサイクル可能です。リサイクル前にそれぞれの部品は分別して回収されなければなりません。多くの国でヒルティは、本体や古い電動工具をリサイクルのために回収しています。詳細については弊社営業担当またはヒルティ代理店・販売店にお尋ねください。

## 11 本体に関するメーカー保証

保証条件に関するご質問は、最寄りのヒルティ代理店・販売店までお問い合わせください。

## 12 EU 規格の準拠証明 (原本)

名称 :	安全鋅打機
機種名 :	DX 351-CT
製品世代 :	01
設計年 :	2008

この製品は以下の基準と標準規格に適合していることを保証します : 2006/42/EG、2011/65/EU.

Hilti Corporation、Feldkircherstrasse 100、  
FL-9494 Schaan



**Norbert Wohlwend**  
Head of Quality & Processes  
Management  
BU Direct Fastening  
04/2013



**Tassilo Deinzer**  
Head of BU Direct Fastening  
BU Direct Fastening  
04/2013

### 技術資料 :

Hilti Entwicklungsgesellschaft mbH  
Zulassung Elektrowerkzeuge  
Hiltistrasse 6  
86916 Kaufering  
Deutschland

ja

## 13 CIP 検査合格

ヒルティ DX 351 CT は工法システム・型式試験に合格しております。本体には PTB の承認済みであることを示す四角マークと承認番号 S 817 が付されています。これにより、ヒルティは当製品が認可された型

式のものであることを保証します。万一本体使用中に受容・許容できない欠陥、不備があることが判明した場合には、承認機関 (PTB) の責任者および CIP 事務局に報告する義務が課せられています。

## 14 使用者の健康と安全について

### 14.1 騒音データ

#### 空砲式安全鋅打機

タイプ	DX 351-CT
モデル	シリーズ
ゲージ	6.8/11 赤
威力設定	3
用途	X-U 27P8 を使用しての厚さ 0.75 mm の鋼板のコンクリート (B35) へのファスニング

記載の音響指数測定値は、E DIN EN 15895 に関する機械ガイドライン 2006/42/EG に準拠したものです。

サウンドパワーレベル、 $L_{WA}$ 、 $1s^1$	110 dB (A)
作業場における排出サウンドプレッシャーレベル、 $L_{pA}$ 、 $1s^2$	97 dB (A)
排出ピークサウンドプレッシャーレベル、 $L_{pC}$ 、ピーク <sup>3</sup>	127 dB (C)
$1 \pm 2$ dB (A)	
$2 \pm 2$ dB (A)	
$3 \pm 2$ dB (C)	

運転および設置条件：Müller-BBM GmbH の無反響検査室での E DIN EN 15895-1 に準拠したファスナー供給装置の設置および運転。検査室の環境条件は DIN EN ISO 3745 に相当します。

検査方法：E DIN EN 15895、DIN EN ISO 3745 および DIN EN ISO 11201 に準拠した反射面上の開放空間での閉じた測定面を用いた測定方法。

注記：測定された排出騒音とその測定不確か性は、測定時に予想される音響指数の上限を示しています。作業状況いかんで、騒音放出値に増減が生じる可能性があります。

#### 14.2 振動

2006/42/EC に準拠した合計振動値は 2.5 m/s<sup>2</sup> 以下です。

使用者の健康と安全に関する詳細は、ヒルティのインターネットサイト「[www.hilti.com/hse](http://www.hilti.com/hse)」でご確認ください。



Hilti Corporation

LI-9494 Schaan

Tel.: +423 / 234 21 11

Fax: +423 / 234 29 65

[www.hilti.com](http://www.hilti.com)

Hilti = registered trademark of Hilti Corp., Schaan

W 3557 | 0414 | 00-Pos. 1 | 1

Printed in Liechtenstein © 2014

Right of technical and programme changes reserved S. E. & O.

400914 / A4

